

平田町48 電381
編輯余行人 田原登
衆印嗣人 田原登
日刊但月 田原登
定價1月40円 田原登
1部1円50銭 田原登
發行所
いわさ民報社

入居中の家を取り毀す暴舉

無情な家主に借家人憤慨

平井曰銀町一占、石部島隱殿（六〇）氏（合資會社社長島崎寛蔵）は昨年十月所有家屋の借主には四年に對し「家屋が腐朽し居住には適せぬ状態で倒壊の危険が迫つてゐることと會社が營業目的を變更し他の事業へ經營する計畫があるので建物を取去ります」と案問の建物を築造す（六一）決議したから賃貸借契約を中止して申渡した。借家人の北谷銀町三八、大ノ箱崎重喜（四二）運轉手會川善二

（年九月ころから）家主から製紙所、精粉工場を作るから近辺の立並き放知の地名を示めされてゐたので近所が激怒するのではないとしたくないと放知の調印を押した處版本文の家は八疊一間と六疊一間で四疊一間に押込められた四人をやつと別な家から四疊間一空をかり起原させてゐる有様、なお北谷さんの住宅は精粉所にすると二階の六疊一部路に押しこめ

陛下を政樂、目下五馬力モ車」を据付けた上使所まで飛來してしまつたのである。今では家具を薄納した事もないのに、と今更乍ら非難なやり方に情がいしているらしい鳥居徳出の留守に變つて息子の勘次郎石部公徳氏は次の如く語つた。

親父がないのでハツキリ判らないが北島さんには市營アパートを世帯すると言ひかけておきました、われ／＼はわりに出てくれとは申し出ておりません

配炭疑獄再燃す

三、官吏大義士(五)
電報業社和川隆久(四三)
事務員大島嶺(四一) 商
人小松良平(四〇)
さん達は狼狽し謝罪を續つて
いるが昨年十月以降は全然家
族を受取らないので、借家人
代表は「この様な世の中です
應援機嫌の難平泰で一應終了
した」とと見られた配役疑獄
は士日福梅安西檢し正との
打合せを終えた京援機嫌の歸
郷と共に又も再燃東京中心に
第三段階を迎えるに至つた、
即ち平檢察廳では十三日
東京部江戸川島小菅町岩出
ガラス會社社長岩田基彦び
全秘書體員其を始め全區東
小松良平、士日山岸ガラス阿
部課長、江東區東兩國東京
ガラス工業會社事務員中島

春春……娘持つ親達へ警鐘

ホールでふく組り逢つた男と踊落ちをしたり、戯れの好奇心から身を持ち崩し男から男へと移り歩く無頼遊女の横行するデカタンな世相の中にこれはまた純粋な乙女心の一筋から總婦と實姉と雷母の間に眞實の愛を求めて途に求めた彼女その失望落膽の余りか花も恥らふ二十一年の書信を自ら絶とうと欲し、讀書まで残したもののこれが家人の察知する處となり危く死の寸前でも保険された事件が発生す、娘持つ世の親達に一つの驚愕を喝らしてゐる。

薄幸に泣く人とは昨年八月迄常陽銀行平支店預金に勤

卷之三

炭疑獄のトツプを切つて收

學部省議院、鶴山菊井郎氏（十八日五五）にかゝる「取調及び物証法違反取調」第一回公判は十四日午前十一時三十分新刑訴法により安藤判事、宮茂檢事係、東京都宗室信次法附、眞木、門傳三辯護士立合のものと開廷されたが、鶴山議長は横領の公訴事實確否に對し、山崎書記の

山崎三男治、鈴木源七、原田庄一、三氏より現金十一万八千六百円取附及び物証

武松ら三名の
傷害と判明
身柄を送

（觀載）山田村と山田長崎、佐藤相川農治を殺し、市川ついではその後植田町區廣瀬は郡山市内で逮捕拘容され

損害三

鹿島鑛に地すべり

否認した。次いで宮後邸より水野公常、松原健郎、島崎雪子「事件は今の取調中であり且事務上の準備も未了であるから來月迄延期して欲しい」共に地すべりし全事務所。

高野信氏を招聘し

十九日「アメリカ報告」講演會
平市務所では筑城文化協會に「アメリカ報告」講演會を開くに同郷人鄭と共催で諸日新聞開く。高野氏は朝日新聞編輯局長。高野氏は鄭を十九員として昨年十二月被る。去年後一時より公幹堂日本間ルーマン大統領府副後のア

十九日「アメリカ報告」講演會

に岡田人郎と共に催で朝日新聞 聞く、高野には朝日新聞の編輯局長、高野直氏を招き十九日午後一時より公衆堂日本新聞社に成されたが物心つく頃ぬか家にいる母が買の母ならぬ母と買母は千勝勝録に事を知り買母悲し想いける春の歌を唱す母に高きばかりであつた、その傍ぬかき頃の聞らかさは何時にかき無口な内政的な娘へどつていつなが、十四、五の春に飯端を来たしその爲露雄雄には彼女を市内仲聞町の最なをのがれた英智子さんはや

長新丸貨物出

町江ノ浦江ノ森警察署前の驛まで貨物出張所（所長高岡友氏）の車庫から發火、全庫庫百一十一坪一棟を始め倉庫十二郎半住宅二百戸及び貨物自動車十台を全焼、全七時二十五分發火した。原因は庫内内でトラクタのエンジンをはけたる餘傍らのガソリンに引火したものと損害約 千万円、なお、蓄には被害がなかつた。

子さんのゆききとは何處だつたか「死」一嘆これだけだつたら、被殺者九十九里の白砂に立つた美智子さんはけがれ明つたこの世に見取りをつけます。彼の愛憎を絶つために遂に死を選擇したのであつた。

綿々綴る
美智子の遺書

三月七日平の父忠死補つたつづいた彼女の遺書は二つに

十五日

十五に午後六時半から「幻燈と輕音楽の夕」を件福寺に於いて開くが、一般市民慰安のためて入場無料である。

強盜の餘罪

發覺

警視廳から來平

なる 十一日湯本町永野谷雜貨商を襲つた二、組日本刀強盜の一人名川上川下源黒助(二十八)假名「まよの夜叉

餓子の母の甘言に牽せられ二十坪の辛苦のうちにこれまで育つて下つた父と縁を契約つてどんなにが憎い娘と思つたことぞせう(中略)生みの母は金々とお金の奴隷のようで子に對する母の愛情は全くなくもないのです、今更にくく背きませんが私が私に縁を切っているのは是一つです、

藝演廳から來
十一日湯本町水登

一 日東京近郊東葉區荒川清澄町
 家へ来しはり。けて衣類等四
 十八金計も脱竊。十三日警視
 廳捜査第一中谷部長はか
 名が来りしした

頭は浮んだのは鐵子に居ると
 聞く寶母のやさい姿であつ
 た、乙女の危機には必つ懸い
 浮きと言う寶母の姿が美智子
 さんの胸にも浮かんだのだ、
 美智子さんは銀こうも退め唯

選が下さへなかつたことを
 お許し下さい、そして美智子
 子と誓う美麗な娘は去年の九月
 九月十六日の大嵐と共に地球
 球とから消えて終つたといふ
 からめて下さい、幼い時
 から生みだに戀しがつてい
 た生みの母なのにと思え
 ば恨ままいとして恨ます
 にはいられません、でも死
 に顔面した今すべての恨み
 も憎しみもすてようといふ
 誓めております(平略)

て鯉子に向つた美智子

だであらうが、事實は全く逆であつた、やさしいはずの母は守銭奴の如く金銭に執着のでも得られぬ美智子さんの今強い人であつた、何ごにも後はどうなるのか、これこそ

平市仲町（公會堂東）

採用手技識鑑

和歌抄書の方箋より、館請抄手
を募集する

資格

新制高校（弱中等學校）卒業以上の學力を有
し、習字漫書に趣味を有する男子

選衛期日

三月十五日より三月三十一日迄の間
待遇

面談の上決定する（願書書持参可也）

昭和二十四年三月十日

100

申込受付 3月末日迄
入 學 日 4月5日
申込書進呈
學生割引定期券發行

公 認 平市2丁目8
東北高等洋裁學

◆ 本 科 (一ヶ年)
◆ 速成科 (六ヶ月)
◆ 研究科 (一ヶ年)
◆ 師範科 (一ヶ年)

て仕組をしていた常陽銀二平

日美領事さんについて次の様
に語つた。

美利子さんはああゆゑ、家庭
の事情のためか實に氣な
人でした、仕事も眞面目で
素直で人受けが良い人でし
た、勿論御僚も評判も良か
つたです、一体どうしたと
いうのでしょうか、御氣の

なれは、十九日、から三十
まで市内一齊に犬大掃蕩を行
つて、この期間中は野犬を繋留し
ておき捕殺員が戸別に巡回し
た場、鈴札と緊防痾種申受
領證を提示するよう喚んでい

けさ銀世界

▲家は、お母が死をもつて世に抗
せんといふ、春は無情

11

